

《学校評価シート（高等学校）》

①	評価領域	総務部
---	------	-----

②	重 点 目 標	1) 教育活動及び諸校務の適正かつ円滑な運営を図る。 2) 危機管理意識の高揚 3) 地域や関係団体との連携を深める。 ・ P T Aとの連携 ・ 同窓会との連携	P
③	現 状	にかほ市と連携協定を結んでおり、本校がにかほ市の避難所に指定されているが、校舎の老朽化やネズミの影響などで防災課との話し合いが必要である。 ・ 平成31年にP T A会則の大規模な変更が行われたが、運用の中で若干の改訂が必要と判断されるため、検討の必要がある。	
④	具体的な目標	にかほ市の防災課との連携。 ・ P T A会則の変更。 ・ P T A行事の運営の見直し。	
⑤	目標達成のための方策	分掌間の連携、月毎の学校行事等の調整 ・ 学校要覧、分掌経営計画、校内規定集の整備 ・ にかほ市と連携した避難訓練及び、避難所運営計画の整備 ・ 関係団体との連携強化 P T A活動の推進と充実 同窓会の組織強化と活動の促進	
⑥	具体的な取組状況	年2回の避難訓練の時間を増やした。 ・ 地震に関する新しい防災訓練の実施。 ・ 新しい危機管理マニュアルの作成。 ・ P T A役員会でP T A会則の改正案の提示と採決	D
⑦	達 成 状 況	防災訓練は年2回行うことになっている。本校では、春に火災からの避難訓練、秋に地震の防災訓練を行う計画を立てた。2つの防災訓練とも時間を増やして、生徒にも防災訓練の重要性を理解させて実施した。 ・ 1回目は5月に行った。にかほ市消防署から職員を派遣してもらい避難状況に関する講評をもらった。また、消火器の使い方も指導してもらった。 ・ 2回目は12月に行った。地震と津波に関する訓練を行った。秋田県保健体育課で、学校防災に関する講習があった際、今までの訓練とは違うもつと実際の状況に即した訓練をする必要があるとの指摘を受け、その新しい形での防災訓練を実施した。 ・ P T A会則の変更に関しては、役員会と学年部の連携ができるないことに問題を感じていた。それを是正するための改正案を8月のP T A役員会で打診し、2月の役員会で話し合うことを予定している。	
⑧	自 己 評 価	(評価) A (根拠) 防災関係で新しい流れができたことやP T Aの連携ができるような取り組みを考えて行ってきた。	C
	↑ 評価基準 ↓	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
⑨	学 校 関 係 者 評 価 と 意 見	(評価) A (意見) にかほ市との連携を進め、避難所としての役割を実行してもらうようにしてもらいたい。	C
⑩	自 己 評 価 及 び 学 校 関 係 者 評 価 に 基 づ い た 改 善 策	にかほ市との連携を深めて、避難所としての役割を確認する。 ・ 今後の避難訓練のあり方を検討する。	A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

教務部

② 重点目標	・学ぶ意欲を喚起させるため、学習環境の質的向上を図る。 ・基礎的・基本的学力の定着、学習に向かう姿勢の確立に向けた取組を推進する。
--------	--

③ 現状	・昨年度の授業評価アンケート（2回目）より、「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目が相対的に低い。
------	--

④ 具体的な目標	・「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目の数値を上げる。昨年度3.58→3.70
----------	---

⑤ 目標達成のための方策	1 ICT機器を効果的に活用し、授業のユニバーサルデザイン化を推し進める。 2 指導と評価の一体化を効果的に行う。 3 探究活動、資格取得を充実させ、自ら学び、考え、発信する態度を育成する。
--------------	---

⑥ 具体的な取組状況	・授業改善(パンフレットを作成、アンケート実施、授業改善旬間) ・UDとICTについてセルフチェック項目を策定 ・観点別評価の研修会実施 ・「『学んでみたい』と思えるような導入・問い合わせの工夫」及び「学び合いを重視した学習形態の工夫」について協議会を実施
------------	---

⑦ 達成状況	・授業評価「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目の数値 → 3.66
--------	---

⑧ 自己評価	(評価) B	(根拠) ・授業改善の意識付けや目標達成のための仕掛けは行うことができたが、目標の数値に届かなかった。
--------	-----------	--

↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨ 学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) ・授業参観の様子から前回の参観時よりもユニバーサルデザイン化が進んでいる。・目標を諦めずに前進を。目標に向かって取り組んでいることを評価する。
--------------	-----------	---

⑩ 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	授業アンケートの評価が目標値に届くよう、生徒のやる気を喚起し、わかる授業を推進する。また、観点別評価を生徒の学ぶ意欲につなげられるような態勢を整える。	
-------------------------	---	--

P

D

C

C

A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

生徒指導

②	重 点 目 標	・基本的生活習慣を確立させ、他者を尊重しつつ、主体的に考え方行動できる生徒を育成する。 ・マナー、ルールの指導基準を精査し、徹底させる。
---	---------	---

③	現 状	・自分本位の言動により、人間関係をうまく構築できない生徒が見受けられる。また、何事にも受け身の生徒が多く、主体的に物事を考え方行動できる生徒が少ない。
---	-----	---

④	具 体 的 な 目 標	仁賀保高校の一員としての自覚を持ち、場に応じた言動ができる生徒を育成する。
---	-------------	---------------------------------------

⑤	目標達成のための方策	・他者を尊重する意識を育むため、全校集会や学年集会で積極的な働きかけを実施する。 ・整容の規定などルール改訂に生徒を参画させ、生徒の当事者意識を高揚させる。 ・日常的な声かけを通して、生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見や未然防止を図る。
---	------------	---

⑥	具 体 的 な 取 組 状 況	・各学期の終業式にて、学校生活の状況や問題点を伝え、他者を尊重して学校生活を送るにはどうすべきかを考えさせた。 ・いじめ防止委員会を活用して、各学年部と連携をとり情報を共有しながら、生徒の小さな変化も見逃さないよう実態把握に努めた。 ・昨年に引き続きタブレットのClassroomを使っていじめアンケートを実施し、現状把握と生徒理解に活用した。
---	-----------------	--

⑦	達 成 状 況	・他者を尊重する意識が浸透しつつあるが、自分本位の考え方行動する生徒がまだみられる。
---	---------	--

⑧	自 己 評 価	(評価) B (根拠) ・生徒も参加させた校則改定に向けての体制づくりや、校則の見直しを実施することができなかった。
---	---------	---

↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B (意見) ・アンケート結果は教員、生徒と保護者の回答に乖離があるようだ。いじめ、校則改定の問題は、保護者や生徒と一緒にになって考えることが大事である。
---	------------	---

⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・他者を尊重する意識を育むだけではなく、自己肯定感を高め、自己も尊重することができる働きかけを、学年部と協力して実施する。 ・校則の改定に向け、生徒や保護者も関わることができる体制や、タイムテーブルを作成し、年度内の改定を目指す。
---	-----------------------	--

P

D

C

C

A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

進路指導部

② 重 点 目 標	1. 基礎学力の定着を図り、個々の進路希望達成に必要な発展的能力や学力を伸長する。 2. 3年間を見通した進路指導計画を作成する。 3. 自立心を育成し教員と就職支援員が連携しキャリア形成を支援する。
-----------	--



③ 現 状	1. 中学校段階の基礎的事項の定着度が低い。家庭学習や提出物を期限までに提出するなどの意識が低い生徒がいる。 2. 就職に関する支援は仁賀保高校としてのスタイルが出来上がっているが、四年制大学への進学指導に関しては、学年部により異なる。 3. 生徒自身の自己理解や家庭の経済状況など、様々な要因を考慮して進路指導する必要がある。
-------	--



④ 具体的な目標	進路希望達成率100パーセント達成
----------	-------------------



⑤ 目標達成のための方策	1. 朝学習での朝読書や、授業と連携した課題により基礎基本の徹底を行う。 機に応じて進路希望に対応した補習を実施する。 2. データや各学年のノウハウの蓄積を基に、3年間を見通した進路指導計画を作成する。外部人材による講座の充実を図る。 3. 進路情報・面談状況を職員が互いに交換しあい、生徒個々に応じたキャリア形成を支援する。
--------------	---



⑥ 具体的な取組状況	1. 朝学習では朝読書や学び直し教材、進路対策等計画的に実施できた。 2. 学年部と連携し、計画を企画・実施できた。新たに3年生の就職面接練習で地元の経済同友会を講師に招き、企業の方からも感謝された。 3. 2年部で、生徒の志望理由書の作成指導にクロムブックを活用した。職員間での情報共有と生徒へのフィードバックが、飛躍的に効率よく行えた。
------------	--

P

⑦ 達成状況	1. 進路希望達成率に関しては、1月末時点で92.5%である。 未決定者に関しては、学年部と連携し指導を継続中である。
--------	--

D

⑧ 自己評価	B	・様々な手立てを講じて効果をあげていると考えるが、未決定者がいるので、目標を達成したとは言えない。
--------	---	---

↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

C

⑨ 学校関係者評価と意見	(評価) B	・個々の生徒に応じた細やかな支援をしていることと、生徒の第一希望実現をほぼ達成していることへの評価が高かった。
--------------	--------	---

C

⑩ 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・今後も各学年部と連携し、個々の生徒の進路志望を把握し、細やかな面談や情報提供を心がけ、保護者共に納得した進路志望実現を心がけたい。 ・地元の経済同友会との連携や、クロムブックの活用を通して、情報提供やお互いのPRを活発に行っていきたい。進路指導も学力向上策を継続する。
-------------------------	--

A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

特別活動部

②	重 点 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 ・学校行事や部活動を通して主体性や礼儀、忍耐力を身に付けさせる。
---	---------	--



③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事さらには部活動、ボランティア活動等へ積極的に取り組むことで、生徒は主体性や協調性を身に付けてきている。部員不足により活動が制限される部が複数ある。
---	-----	---



④	具 体 的 な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築きながら、自主的、実践的な態度と礼節を重んじる心を育てる。
---	-------------	--



⑤	目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒会及び地域の行事・部活動へ積極的に参加する生徒を育成する。 2 自分の考えを述べることができる生徒会、委員会活動の推進を促す。 3 ボランティア活動の自主的な参加を推進する。 4 充実した集団生活の確立をめざすホームルームの経営を促進する。
---	------------	---



⑥	具 体 的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・全校鳥海登山、体育祭、球技大会、仁高祭等、年間に予定されていた全ての行事をコロナ対策をしながら実施することができた。 ・復活2年目ソフトテニス部は全ての大会出場を果たし、新設2年目eスポーツ部は多くのイベントや選手権に参加することができた。 ・ボランティア活動では、NCC同好会やeスポーツ部での地域連携事業に取り組んだ。
---	-----------------	--

P

⑦	達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を尊重しながら全行事をコロナ対策をした上で遂行することができた。 ・部活動については、活躍する部等がいくつか出てきたが部員不足の部が多くあるので、今後更に対策を講じながら進めていく必要がある。
---	---------	--

D

⑧	自 己 評 価	<table border="1"> <tr> <td>(評価)</td><td>(根拠)</td></tr> <tr> <td>A</td><td>・全行事を生徒の主体性を尊重しながらコロナ対策をして実施できた。それによって生徒が企画力や団結力を高め、集団としての一員としての自主的・実践的な態度が成長することができたことは評価できる。</td></tr> </table>	(評価)	(根拠)	A	・全行事を生徒の主体性を尊重しながらコロナ対策をして実施できた。それによって生徒が企画力や団結力を高め、集団としての一員としての自主的・実践的な態度が成長することができたことは評価できる。
(評価)	(根拠)					
A	・全行事を生徒の主体性を尊重しながらコロナ対策をして実施できた。それによって生徒が企画力や団結力を高め、集団としての一員としての自主的・実践的な態度が成長することができたことは評価できる。					

C

↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>(評価)</td><td>(意見)</td></tr> <tr> <td>A</td><td>・学校行事等は、少ない人数でよく工夫して効果を出している。部活動は、ますます人数が少なくなり大変だとは思うが、より一層工夫をして活動してほしい。人間関係を育む場として是非、有効活用してほしい。</td></tr> </table>	(評価)	(意見)	A	・学校行事等は、少ない人数でよく工夫して効果を出している。部活動は、ますます人数が少なくなり大変だとは思うが、より一層工夫をして活動してほしい。人間関係を育む場として是非、有効活用してほしい。
(評価)	(意見)					
A	・学校行事等は、少ない人数でよく工夫して効果を出している。部活動は、ますます人数が少なくなり大変だとは思うが、より一層工夫をして活動してほしい。人間関係を育む場として是非、有効活用してほしい。					

C

⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動は2年前に活性化させようと部活を増やしたが、以前より加入率が下がってきて現状である。今年度は部活の精選をせずに現状維持を行うが、顧問の配置の工夫やバランスの良い運営方法を考えていきたい。
---	-----------------------	---

A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

健康教育部

②	重 点 目 標	・保健指導の充実 ・校舎内外の美化の推進 ・救急体制の充実と意識向上
---	---------	--

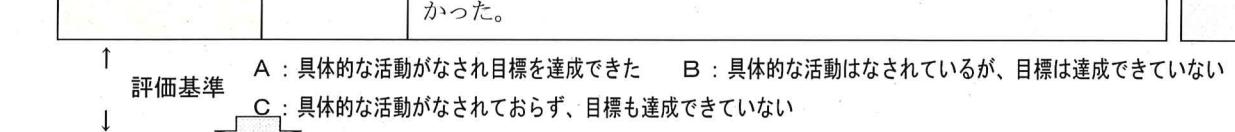
③	現 状	・新型コロナウィルス感染者数が、高止まりで推移している。現在は変異ウィルスが感染している。しかし、生徒はコロナ慣れの状況が見られる。 ・物事に夢中になると周囲が見えなくなり、負傷したり、危ない場面に遭遇することもある。
---	-----	--

④	具 体 的 な 目 標	・新型コロナウィルス感染症への対策を、感染・警戒レベルを考慮しながら実施する。 ・普段の注意喚起に加えて、学校行事等の事前指導なども実施する。
---	-------------	--

⑤	目 标 達 成 の た め の 方 策	・新型コロナウィルス等の感染症に対する対応を職員・生徒・保護者に周知徹底する。 ・健康管理に関して、職員及び必要に応じて保護者との連携を密に行う。 ・校舎内外の美化に努め、生徒の清掃に対する意識の向上を図り、快適な学習環境を保つ。 ・保健美化委員会と協力して、校舎内外の美化向上に努める。 ・全職員対象の救命救急講習会を実施する。
---	---------------------	---

⑥	具 体 的 な 取 組 状 況	・感染者数やウィルスの変異による症状の変化により、新型コロナウィルス感染症に対する対応方法について、国や県の指示が年度途中で変更になり、保健だよりなどで対応方法については、周知してきた。 ・生徒の健康管理について、保健室を中心に学年部と連携しながら、予定していた健康管理に関わる業務が行われている。
---	-----------------	--

⑦	達 成 状 況	・対応方法の変更等について、その都度実施できた。また、CO ₂ 濃度測定器を活用し、換気等に取り組んでいる。
---	---------	---



⑨	学 校 関 係 者 評 価 と 意 見	(評価) A (意見) 新型コロナウィルス感染症の対応方法については、概ね評価されている。また、その他の活動においても、健康教育全般にわたって、指摘された点は少なかった
---	---------------------	---

⑩	自 己 評 価 及 び 学 校 関 係 者 評 価 に 基 づ い た 改 善 策	新型コロナウィルス感染症対策は、現時点では、感染者数の減少や症状の軽減がみられるが、完全に収束してはいないため、今後も状況をみながら対応していく。また、健康教育の事業等について、他分掌等の事業との兼ね合いで、時間の確保が難しい面もあるが、密に連携し、実現にむけて活動する。
---	---	--

P

D

C

C

A

《学校評価シート（高等学校）》

(1) 評価領域 健康教育部(教育相談)

②	重 点 目 標	・不登校・学校不適応生徒への早期対応 ・生徒の自立や自己実現のための支援体制の確立 ・教育相談に対する生徒や職員、保護者の啓発
---	---------	---

③	現 状	・中学校や小学校時に不登校になり、高校に入学後もその傾向を継続している生徒が存在している。 ・些細なことから友人関係が損なわれて、孤立したり、問題が発生したりすることが増加傾向にある。
---	-----	---

④	具 体 的 な 目 標	・特別支援委員会等で情報共有し、カウンセラーや外部の相談機関と連携し、その生徒に必要な対応を提供し改善に向けた対応を行う。
---	-------------	---

⑤	目標達成のための方策	・生徒について、全職員や各家庭との情報交換を積極的に行う。 ・各学期に1～2回、特別支援教育校内委員会を開催する。また、内容により教育専門監の派遣を要請する。 ・生徒向けのスクールカウンセラー講話を実施する。 ・1学年PTAでカウンセリングについて紹介する。 ・教育相談便りを定期的に発行する。 ・教育相談部員が研鑽に努め、研修成果を広く職員に提供する。
---	------------	--

⑥	具 体 的 な 取 組 状 況	一学期は、不登校生徒の対応が中心であったが、相談対象者がスクールカウンセラーとの面談でさえ、拒否するケースが多く、不登校への対応の難しさを感じた。また、集団による問題が多く発生し、指導が集団に合わせて進められており、個別の生徒に対する指導は少なかった。 2学期も、学習面の個別指導は少なく、生徒指導的や交友関係のもつれなど、集団行動面での問題が発生し、その対応に追われた。
⑦	達 成 状 況	年間を通して、特別支援計画を作成し指導した生徒はおらず、集団への指導を中心となっている。また教育相談についても、生徒本人よりも、保護者や担任を含めた学年部といった対応する側の相談が目立った。

⑧	自 己 評 価	(評価) B	(根拠) 教育相談で、悩みなどの問題を抱える生徒の指導が思うように進まず、結果として、学校に戻れなかった生徒があり、この問題の難しさと、指導の困難さを感じた
---	---------	-----------	--

↑ 評価基準 ↓
 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

⑨	学 校 関 係 者 評 価 と 意 見	(評価) B	(意見) スクールカウンセラーの活用について、改善を求める指摘がある。活用方法は、今年度相談内容の大半が、不登校によるものであり、アプローチの段階から難しい点が多くあった。
---	---------------------	-----------	---

⑩	自 己 評 価 及 び 学 校 関 係 者 評 価 に 基 づ い た 改 善 策	スクールカウンセラーの活用方法の検討が必要であるが、カウンセラーの来校時間と、相談に必要な時間を考慮すると、不登校などの生徒を優先しなければならず、一般生徒の相談に時間が回らない。また、1年の講話以外、生徒に紹介する場面もなかつたため、周知活動も必要である。そのため次年度、短時間であっても時間の余裕が発生した場合、積極的に授業や校内での生徒の観察活動を実現させる予定である。		
---	---	--	--	--

P

D

C

C

A

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

教育情報部

②	重 点 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の情報機器の管理と情報モラルに対する意識を高める。 教員のICT活用能力の向上を図り、授業改善に資する。 施設、設備、機器を適切に運用する。
---	----------------	--

③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ禍への対応もあり、環境整備に重点が置かれてきた。 多くの場面でICTの活用がなされるようになったが、依然、指導者の活用状況や習熟度には個人差がある。
---	------------	--

④	具 体 的 な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信に伴う危険性と責任について、生徒の自覚を促す。 授業でe-AKITAの環境や大型表示装置を活用する機会を増やす。 施設、設備、機器を良好な状態に保つ。
---	--------------------	---

⑤	目 标 達 成 の た め の 方 策	<ul style="list-style-type: none"> 他の分掌や教科と連携し、様々な機会を捉えて情報モラルに関わる指導を行う。 必要や要望に応じた研修の実施や有用な情報の提供に当たる。 授業や特別活動での図書室利用を推進する。 県立学校学習ネットワークシステム及びe-AKITAの管理・運用、各種視聴覚機器の維持・更新に当たる。
---	----------------------------	--

⑥	具 体 的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 新入生オリエンテーションにおいて生徒指導主事より、SNSなどに關わるマナーと危険性について、注意・呼びかけがなされた。 職員会議の配付資料で、公的研修や校内研修の日程を周知した。 図書の購入希望をChat等で広く呼びかけ、蔵書の更新を図った。 ネットワーク管理者と連携し、学習系ネットワークの統合を済ませた。また、統合型学校支援システムの導入が進められている。
⑦	達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者との情報モラルに対する意識が、教員を上回っている。 蔵書の更新を順調に進んでいるが、利用向上に至っていない。 授業や校務において、ICTの活用が高まっている。

⑧	自 己 評 価	(評価)	(根拠)	
		B	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から情報モラルの指導に対する生徒、保護者の評価は良好だが、教員側は指導できる余地を感じている。図書館利用についてはその環境整備の段階であり、具体的な利用促進策を講じるに至らなかった。 	C

↑	評価基準	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた	B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない	
↓		C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		C

⑨	学 校 関 係 者 評 価 と 意 見	(評価)	(意見)	
		B	<ul style="list-style-type: none"> 教員のICT活用能力の向上と図書館利用促進対策を。 スマホ・タブレットの時代なので図書の利用は少なくなる。 情報モラルの意識は高い世代かも知れない。 	C

⑩	自 己 評 価 及 び 学 校 関 係 者 評 価 に 基 づ い た 改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の取り扱いや情報モラルに対する意識を調査し、授業や生徒活動に生かしてもらう。 機器利用のルールの整備と定着を図る。併せて、新入生オリエンテーションなどの機会を通じ、保護者にも理解を促す。 ICTを活用し、図書委員会と連携して「本」に関する情報提供や要望調査を行う。また、教科や他の分掌と連携し、図書及び図書館を利用する学習活動やイベントを活性化する。 		A
---	--	---	--	---

P

D

C

C

A